

1月21日 水のセミナー
水素水とソマチッド？

ソマチッド 超微小生命体

ソマチッドの研究

ソマチッドの命名者はフランスの生物学者ガストン・ネサン。
フランスの生物学会で迫害され、カナダのケベック州へ移住。ソマチッドの研究を進める。

ソマチッドを利用した製剤『714X』を投与していろいろな人の病気を治す。
世界裁判にかけられるも、長い間戦い続けた。

ソマチッドとは？

- 超微小生命体
- 0.5~80/1,000,000,000mm (ナノ) の大きさ
- 命の大本
- 最古の生命体

ソマチッドの謎 1

- 顕微鏡で視認することができる
- **しかし世界の生物学会、医学会では認められていない ⇒何か秘密が？**

ソマチッドはどこにいる？

- 宇宙、鉱石、土、植物、動物 どこにでも存在する
- エネルギーが活性化している環境を好む

ソマチッドの謎 2

- DNAもウイルスも原核生物の単細胞も生命体が進化して植物や動物など現在の姿になっている
- ソマチッドは1種類しかない
⇒**大本が宇宙から来たソマチッドなのか？**
⇒**ソマチッドが繁殖しやすいように進化しているのでは？**
- はやぶさ2が目的とした小惑星リュウグウ。世界各国が多大な費用をかけて宇宙の土を研究しようとしているのは生命体の根本を解明して新しい技術に生かそうとしているのでは？

ソマチッドの特徴

- エネルギーが活性化している環境を好む
- 環境変動に強い
- 死なない
- 水があれば動く

ソマチッドが好むのは？

- 水があれば動く 乾いてくると逃げる
- エネルギーが活性化している環境を好む ⇒水素水
- エネルギーがなくなってくると逃げていく
- 形骸化すると逃げる、種になる

ソマチッドは死なない？

- 環境変動に強い
- 種（殻）となって戻ってくる
- 死なない
(例：植物が焼かれてもソマチッドは炭の中に残ってじっとしている)
- 温度、圧力、pH、電磁波もびくともしない

ソマチッドは水素が大好き！

- エネルギー活性状態になるから水素が大好き
- 美容・健康には、水素、フルボ酸、ソマチッドが関係している

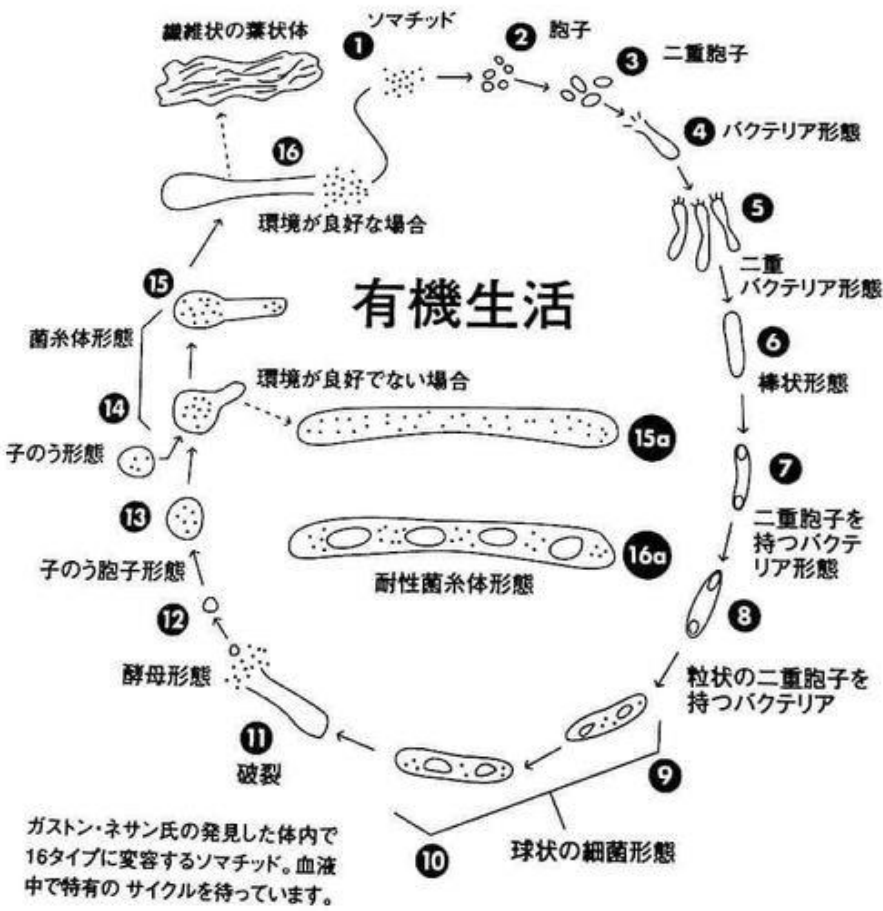
エネルギー活性状態は一方的なものではない

- 陰陽 ・ 圧力増減 ・ 温度高低 ・ 磁気NS ・ 回転左右上下 ・ イオン＋－
- メビウス ・ 音波 ・ 電磁数 ・ 電子 ・ 衝突 ・ 放射熱 ・ 静電気 ・ 摩擦

ソマチッドは16変態する

ネサン氏の初期におけるソマチッド・サイクル図

※右図は転載です→



健康と病弱 ソマチッドの比較

健康で元気	病弱
多い	少ない
原始形1~3	変態形
集まる	逃げる、殻で冬眠

- 宿主は死んでもソマチッドは死なない

ソマチッドの共存

- 繁殖するために共存するのは同じ
- 集団行動した方が生き残る可能性が高くなり、効率が良い
- 増えすぎると「生のための死」
- 生態系全体の仕組みの中でそうになっていくのではないか

人間はどうか？

- 各部位（脳や胃など）の能力で共生して効率UP
- 外部の環境が悪化しているのが病気の原因になっているのではないか
- 共生社会の中で「好き嫌い」は弊害
- 日本の天皇家は徳をもって治める平和共生の象徴

ゴウダの血液内のソマチッド

2021年1月21日(セミナー当日)のお昼に採取したゴウダの血液内のソマチッド。



多数見える小さい黒い点
がソマチッド。
細かく動いています。

顕微鏡で観察できます。